

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年7月9日)

### 公治長第五

25 顔淵・季路侍す。子曰く、盍ぞ各爾が志を言わざると。子路曰く、願わくは車馬衣裘、朋友と共にし、之を散るとも憾むこと無からんと。顔淵曰く、願わくは善に伐ること無く、勞に施ること無からんと。子路曰く、願わくは子の志を聞かんと。子曰く、老者は之を安んぜしめ、朋友は之を信ぜしめ、少者は之を懐かしめんと。

顔淵と季路という孔子のお弟子さんが、孔子の側に立っています。孔子がリラックスした雰囲気です。「それぞれが自分の志を言ってみてはどうだね」と水を向けました。

子路がまず発言をして「自分の馬車や、良い衣服や毛皮を友達と共有して使えるようにしたい。仮に、馬や衣服がボロボロになっても友人を恨むことはしない。友達と一生懸命付き合いましたもの」と答えました。

顔淵は「善い事をして自慢しない。面倒な事は人にさせないで、自分でやっていきたい」と言いました。

子路が、「先生はどうですか」と聞いたので、孔子が「お年寄りには安心してもらえる。友達同士にはお互い信頼ができるような間柄でいたい。子供たちにはなつかれたいものだな」と言いました。

今風に考えてみましょう。友人同士の集まり、政治家の集まり、趣味の会の集り等々、色々な集まりがあると思います。その中で、これからどうやって生きていきたいとか、自分の志はどうか、といったことをお互いが言い合えるような仲であれば良いなと感じます。

子路は車と着るものを友人と共有したいと言っていますが、お互いがプライドを持っていないと、なかなかこうはいかないと思います。こういう付き合いをしている友人同士を見ているので、私は違和感はありませんが、現実問題としてこれはかなり難しいと感じます。

顔淵の言ったことは、宮沢賢治を思い浮かべますが、これもなかなか出来ることではないと感じます。

孔子の言ったことは、出来そうな気が致しますが、これも難しいなと思います。「老者は之を安んぜしめ」というのは、周りは相当気を遣うだろうなと思います。70代くらいの方

ならそれほど難しくないでしょうが、高齢者と言っても年代によっても違うと感ずます。周りを見て、そのプライドの具合によつて、安んぜしめる方法もかなり研究しなければ今の時代はいけないと思ひます。「朋友は之を信ぜしめ」という部分も、友達といつてもなかなかお互いが信じあうというのは難しい。鳩山さんと小沢さんで考えると、お互いがお互いを信じているというポーズをつくつて抱き合い心中で辞任をしましたから、ちよつと変わった形の朋友であろうと思ひます。「少者は之を懐かしめる」という部分は、意外と小さい子供は大人の様子を見ているものです。以前も申しましたが、金丸信さんのお孫さんが家に来る政治家を見ていて、小沢さんだけは顔はニコニコしているけれども目だけは冷たくギラギラと周りを見回しているので、あのおじさんは怖いと言つたそうです。小さな子供の目はごまかせないものだと思ひます。

26 子曰く、已んぬるかな。吾未だ能く其の過ちを見て、内に自ら訟むる者を見ざるなり。

孔子が言うには、もう世も未だな。周りを見渡すと、自分が過ちをして自分自身を攻める者を見なくなって久しい。

世も未だという部分は、現代に置き換えてそのまま使えます。今日、新宿で元横浜市長の中田宏さんがマイクを持って参議院選のパフォーマンスをしていました。自分で失敗したからといって、自分自身を攻めるような人は見たことがありません。特に、政治家や官僚に聞かせたいなと感ずます。

27 子曰く、十室の邑、必ず忠信なること丘が如き者有らん。丘の学を好むには如かざるなり。

孔子が言うには、わずか10軒の家庭しかいないような小さな村にも、必ず私のように学問を好む者、そして忠孝の人物は必ずいるだろう。しかし私のように学問を真剣に追究して打ち込む人物はいないだろう。

小さなグループの集まりの中にも、学びたいという人は沢山いるだろうが、継続してずっと同じように一つの学問を学び続ける者はなかなかいない。是非、学び続けてもらいたいものだなあという気持ちが入っています。

この詩吟の会でも、皆さんずいぶん長くやっておられます。長く続ければ、必ずその中にきらっと光るものがあるということです。今、習っているもの・学んでいるものは、出来るだけ生ある限り学び続けるがよかろう、と置き換えて読めばよかろうと思います。

本日は以上です。有難うございました。